

## シアトル美術館日本古美術展覧会（1949年）について

志邨 匠子

1949年、アメリカ合衆国のシアトル美術館において、シャーマン・E・リーの企画による日本古美術展が開催された。リーは、1946年8月から、占領下の東京において、GHQ/SCAPの民間情報教育局美術記念物課で美術顧問官として勤務し、1948年6月、シアトル美術館に副館長として迎えられていた。このシアトル美術館日本古美術展については、前号（『秋田公立美術大学研究紀要』第1号）の論文において簡単に触れたが、その後、新たに関連資料を入手することができた。本稿では、新資料を参考に、同展の主要出品作を示し、現地の批評と展覧会の意味について考察する。

キーワード：シアトル美術館、日本古美術展覧会、シャーマン・リー

### On the exhibition “A Survey of Japanese Art” held at the Seattle Museum of Art in 1949

SHIMURA Shoko

The exhibition “A Survey of Japanese Art” conceived by Sherman Lee took place at the Seattle Museum of Art in 1949. From 1946 to 1948, Lee, as a collection advisor, had worked for the Arts and Monuments Division of CIE in GHQ/SCAP located in Tokyo at the time. After returning to the US, Lee assumed his role as associate director of the Seattle Museum of Art and curated this exhibition. With the list of main works presented at the show, this paper will analyze the critical responses to the exhibition and examine the significance of the show.

Keywords: Seattle Museum of Art, Japanese Art Exhibition, Sherman Lee,

#### 1 概要

シアトル美術館日本古美術展（以下「シアトル展」と略）は、1949年11月9日から12月4日まで、シアトル美術館の6部屋のギャラリーを使って開催された<sup>1</sup>。展覧会の正式名は“A Survey of Japanese Art”である。

シャーマン・E・リー（Sherman E. Lee, 1918-2008）は、1946年8月から、占領下の

東京において、GHQ/SCAP（連合軍最高司令官総司令部）CIE（民間情報教育局）の美術記念物課で顧問官として勤務し、1948年6月、シアトル美術館に副館長として迎えられていた。この日本古美術展は、リーの企画によるものである。

シアトル美術館は、リチャード・フラー（Richard E. Fuller）と彼の母親の寄付によっ

て1933年に設立された。フラー母子はアジア美術のコレクターで、同美術館は充実した日本美術コレクションを有していた<sup>2</sup>。リーは、少なくとも日本に滞在していた1948年には、同館への就職が内定しており、帰国前に館長のフラーから日本美術作品の買い付けを依頼されている<sup>3</sup>。1949年の日本古美術展は、シアトル美術館が既に有していた日本美術コレクションを中心に、リーが同館のために購入したものと、日本の国立博物館や個人コレクター、アメリカ国内の美術館や個人コレクターから借用した作品で構成された。一般公開されてから20日間で約10000人が来場、つまり一日平均500人の来場者があったという<sup>4</sup>。

出品作品は、下記の12のセクションに分類されていた。当時の展覧会冊子<sup>5</sup>と『国立博物館ニュース』（第34号 1950年3月1日）の記事<sup>6</sup>を参考にしながら、セクションを順番に記す。

1. 初期仏教、神道美術 (Early Buddhist and Shinto Art)
2. 大和絵 (Yamato-e)
3. 足利水墨画 (Ashikaga Monochrome Painting)
4. 能面の発展 (Development of the Noh Mask)
5. 茶の湯 (Cha no yu)
6. 庭園 (Gardens)
7. 後期絵画および装飾派 (Later Painting and the Decorative School)
8. 陶磁器 (Japanese Ceramics)
  - 初期瀬戸焼 (Early Seto Stoneware)
  - 日本磁器 (Japanese Porcelain)
  - 京都磁器 (Kyoto Porcelain)
9. 版画 (Japanese Prints)
  - 初期浮世絵 (Early Ukiyo-e Wood Block Prints)
  - 後期木版画 (Later Wood Block Prints)
  - 北斎派の素描 (Drawings of the Hokusai School)

10. 桃山・徳川装飾美術 (Momoyama and Tokugawa Decorative Arts)
11. 民芸 (Folk Art)
  - 民芸陶磁器 (Folk Ceramics)
  - 民芸木彫 (Folk Carving in Wood)
  - 大津絵 (Otsu-e)
12. 花道 (Flower Arrangements)

展覧会冊子には、セクションごとの解説、出品作品のデータ、一部の作品に対する簡単な作品解説が記されている。作品の通し番号は176までつけられているが、抜けている番号も多く、またひとつの番号に複数の作品が記載されている場合もある。この点については、冊子の末尾に「このカタログに全出品作を掲載することは不可能であった。しかしここに選ばれた作品は、展覧会の中で最も重要なものである」と注意書きが添えられている<sup>7</sup>。したがって、この冊子は完全な出品作品リストではないが、主要作品を確認する意味で、ここに翻訳し再録する（別表）。なお正確な出品点数は不明だが、現地の新聞は、350点以上と報じている<sup>8</sup>。

セクションは、大まかに時代順になっているが、「能面」や「陶磁器」といった作品の種類による分類も混在し、「茶の湯」や「庭園」、「花道」といった一般的な美術展覧会では扱われないジャンルも含まれている。「茶の湯」には、茶道具の他に茶室の写真が展示され、「庭園」にも金閣寺等の写真が展示された。「花道」は、シアトル在住の庄司権之助夫人による生け花で、「初期仏教、神道美術」「足利水墨画」「桃山・徳川装飾美術」の3つのセクションに、各々の時代にふさわしい様式で花が生けられていた<sup>9</sup>。また「民芸」のセクションに大津絵が含まれていることも興味をひく。この展覧会の特徴は、日本美術を網羅的に紹介している点である。古代から近世まで、扱っている時代も長きにわたっているが、写真展示をしてまで茶室や庭園を示し、さらに本物の生け花を展示するなど、日本美術を支える文化を広く紹介したいという

シャーマン・リーの意図が感じられる。

シアトル展は、海外で開催された日本古美術展としては、戦後になって、はじめてのものであった。戦前では1900年パリ万博、1910年日英博覧会における日本古美術展示、1936年のボストン日本古美術展覧会、1939年ベルリン日本古美術展覧会、同じく1939年金門万博 (The Golden Gate International Exposition, San Francisco) における日本古美術展示があげられる。シアトル展の後には、1951年のサンフランシスコ日本古美術展、そして1953年のアメリカ巡回日本古美術展が続く。ただしシアトル展は、シアトル美術館の企画によるものであり、日本が主体的に関わっていない点で、上記の展覧会とは性質が異なる。しかし、同展は、出品点数が350点を超える総合展示であり、占領期のアメリカにおける日本美術の紹介と受容という観点から、重要な意味をもっている。さらに、日本人の意向がほとんど介入せず、アメリカ人がアメリカ人に呈示した日本美術観を観察する手だてになると思われる。また2年後に同じ西海岸で開催されるサンフランシスコ日本古美術展への先駆となる展示であったことも考慮されるべきである。

## 2 日本からの出品作品

日本からの借用は、以下のように、国立博物館 (現東京国立博物館) から4点、個人から10点であった<sup>10</sup>。以下、作品番号、所蔵先とともに記す。

- 3 《如来坐像》国立博物館
- 47 《鳥獣戯画残闕》国立博物館
- 54 雪舟《金山寺図》国立博物館
- 59 単庵《芦鷺図》国立博物館
- 4 《法隆寺刺繍幡》瀬津伊之助 (鎌倉)
- 8 《山水図》瀬津伊之助 (鎌倉)
- 10 《過去現在因果経》繭山順吉 (東京)
- 33 《駿牛図》繭山順吉 (東京)
- 43 《壺》松田福一郎 (小田原)
- 44 《壺》大宮伍三郎 (鎌倉)
- 90 《三羅漢》羅漢寺 (東京)

- 158 俵屋宗達《牡丹図》前田青邨 (鎌倉)
- 159 本阿弥光悦・俵屋宗達《墨画卷》瀬津伊之助 (鎌倉)
- 163 尾形光琳《鶴蒔絵硯箱》原良三郎 (横浜)

現地の批評に影響を与えた情報として、原田治郎が『ニッポン・タイムズ』に寄せた記事「シアトルの展覧会に出品される4点の美術作品」<sup>11</sup>が注目される。たとえば、10月30日の『シアトル・タイムズ』には、原田の文章が引用されており<sup>12</sup>、同紙の記事が原田の記述に負うところが大きいことが分かる。原田治郎は、当時、国立博物館の文部事務官であり、英語が堪能であったことから、『ニッポン・タイムズ』に英語で記事を執筆していたと推測される<sup>13</sup>。記事には、シアトル展の概要、シャーマン・リーの経歴とリーの日本美術に関する知識、そして国立博物館がシアトル展に貸し出す4作品に関する解説が記述されている。リーについては、リーがGHQのCIEに美術顧問官として勤務した後、充実した日本コレクションを有するシアトル美術館の副館長に迎えられたこと、鎌倉美術に高い関心を持っていること、などが紹介された。

4作品とは、先に記した《如来坐像》(図1)、《鳥獣戯画残闕》(図2)、雪舟の《金山寺図》、単庵の《芦鷺図》(図3)である。これら4点の作品を選んだのはリーだという。特に金銅の《如来坐像》は、飛鳥彫刻の優品のひとつであり、法隆寺から帝室コレクションに入ったものであると説明されている。作品解説も以下のように細やかになされている。

「この小像は、口角に特徴的なアルカイック・スマイルをたたえ、水かきのある大きな手をして、襷のあるドレスと左右対照にたれさがったスカートを着用している。穏やかな威厳があり、中国の隋の彫刻を思い出させる。7世紀の日本で繁栄した止利派の典型的な作例である。」

原田は、博物館所蔵の他の3作品についても、解説を書いている。雪舟の《金山寺図》については、金山寺は雪舟が中国に滞在していた時に訪れた禅寺であること、雪舟が帰国した1469年か翌年に描かれたこと等に触れ、「この作品は、この偉大な風景画家の研究者にとって、とりわけ技術的、様式的な点において非常に興味深い」と述べている<sup>14</sup>。現在のところ、この出品作に同定される雪舟作品は定かでない<sup>15</sup>。

3点目の《鳥獸戯画残闕》（図2）については、力強い線と器用な筆遣いが特徴として挙げられている。4点目の単庵の《芦鷺図》（図3）については、以下のように解説されている。

「この簡素な黒一色が、彼の技術を雄弁に物語っている。もちろん、このスケッチは、ほんのわずかな筆さばきで描かれているというだけではない。この絵画は完成していて、それ以上のストロークがあふれている。鷺の様子には、年老いた哲学者のような何かがある。まるで彼は、事物の深奥に入り込み、この物質世界の意味を理解しようと努めているかのようである。」

さらに原田は、以前に海外で開催された日本美術展覧会、すなわち、1910年の日英博覧会、1936年にボストン日本古美術展、そして1939年のベルリン日本古美術展に言及し、その時はいずれも、日本から専門家が作品の移送に付き添っていたが、今回は誰も付き添っておらず、それは新しい日本からアメリカに対する信頼と親善のあらわれとみることができるのではないかと述べている。最後に、博物館所蔵とは別に、日本からシアトル展に送られた作品として、前田青邨蔵の俵屋宗達《牡丹図》、繭山順吉蔵の《過去現在因果経》と《駿牛図》、原コレクション、松田コレクション<sup>16</sup>について触れられている。

翌年の座談会で原田が語ったところによれば、シアトル美術館のコレクションに欠けて

いる部分を、国立博物館の所蔵作品で補い、個人コレクターからの出品は、龍泉堂の繭山順吉の斡旋によるという<sup>17</sup>。戦前、龍泉堂は中国の古陶磁を専門に扱っていたが、繭山が、東京でCIEの仕事をしていたリーに知り合い、日本美術に興味を抱いていたリーの影響で、繭山もリーとともに日本の古美術の勉強をはじめた。その後、両者は信頼関係を深め、帰国後、リーはシアトル美術館のために、繭山から、あるいは繭山の仲介で日本美術作品を購入している<sup>18</sup>。

またリーは滞日時に古美術商の瀬津伊之助とも親交を結び<sup>19</sup>、シアトル展では、瀬津から《法隆寺刺繍幡》、《山水図》、本阿弥光悦・俵屋宗達の《墨画卷》を借用している。

### 3 リーの日本美術観

展覧会冊子の冒頭は、以下の文章ではじまっている。文章には筆者が記されていないが、展覧会を企画したリーが書いたものと判断して良いだろう。

「日本美術は、しばしば、中国美術の不十分な反映であると言われてきた。この展覧会の目的は、その反対であること、そして世界の美術に対する日本独自の貢献を示すことである。中国スタイルは、二つの大きな影響の波、すなわち飛鳥・奈良時代と足利時代において支配的であった。実は、初期中国美術の研究は、日本に残されているこの貴重な遺物なしには不可能である。それ以外の時代の日本美術は、独創的で日本固有のアプローチを示し、日本を代表する重要な美術表現のひとつとなった。日本は、木彫、絵巻物、装飾的な屏風、漆工の分野において覇権を握っていると言われる。」<sup>20</sup>

以上のように、リーは、この展覧会によって、まずアメリカ人に、日本美術は中国美術の単なる模倣ではないこと、そして日本美術の独自性を認識させることに主眼をおいていた。翻って言えば、1949年の時点で、日本美



術の特質は、アメリカ西海岸においては浸透していなかったことを示している。だからこそ、この展覧会は、古墳時代の埴輪から19世紀初頭までを「概観 (survey)」する構成となっていた。

この意味で、最も古い出品作品が埴輪<sup>21</sup>であったことは興味深い。なぜなら、1951年のサンフランシスコ日本古美術展にも、埴輪が4点出品されており、その際、日本側は、これらの埴輪を、仏教の影響を受ける以前の日本の土着性を示す造形として出品し、英文カタログにもそのことが明記されていたからである<sup>22</sup>。一方リーは、この展覧会を企画した時点では、埴輪によって日本美術の固有性を見せようとしたのではなく、むしろ、その造形に漢と東南アジアとの類似性を見ていた<sup>23</sup>。しかし、1964年に著した大著 *A History of Far Eastern Art* において、リーは「埴輪は、完全に土着の様式で、大陸の副葬小像とは根本的に異なっている」と述べ、中国美術との違いを明確に論じている<sup>24</sup>。どの時点でリーが見解を変えたのは定かではないが、サンフランシスコ日本古美術展において日本が示した論点が、リーに影響を与えた可能性も否定できない<sup>25</sup>。

またリーがこの展覧会の出品作品を19世紀初頭までとしたのは、「明治以降、日本美術は凋落し、今日、最も将来を囑望されている芸術家は、近代西洋のスタイルで仕事をし、とりわけフランス美術の影響を受けている」<sup>26</sup>と考えたからであった。したがって、リーの考える日本美術の固有性とは、平安、鎌倉、桃山、江戸時代に見出せると言えるだろう。

ではリーは、日本美術の固有性を具体的にはどのように見ていたのだろうか。この点について、展覧会冊子の載せられた解説の中で、特に日本的な要素が述べられている部分を抜粋し、以下に要約する。

神道は日本固有のアニミズム崇拝であり、この展覧会では作品番号34の《熊野曼荼羅》に表現されている。貞観時代には、とくに木彫 (作品番号11) において日本独自のスタイ

ルが発展し、貴族的な洗練さが際立つ藤原時代には、ほぼ全ての分野において見事な日本の表現が見られる。続く鎌倉時代は露骨なミリタリズムとプラグマティズムの時代で、写実的で力強い表現を見出すことができる。その新しい精神は、四天王像 (作品番号35) などに見られる。しかし、鎌倉時代の最も偉大な表現は大和絵である。大和絵は、露骨な現実性を有している点において、特に日本的であり、より一般的な中国の人物画とは対照的である。この展覧会では、アメリカではこれまで紹介されたことがない、大和絵の完成された流れを展示している。初期の宗教的なもの (作品番号16、22) から、古典的な物語絵 (作品番号23、24)、そして土佐派への移行を示すもの (作品番号25、65) である。足利時代は、宋の水墨画の影響が強いが、周文、雪舟の時代の後、そのスタイルは日本的になり、狩野派が起こる。狩野派は、注文によって水墨画と着彩画の両方を描いた。土佐派は大和絵の伝統を引き継ぐが、自由で活気のある装飾的な様式に影響を受けた。しかし最も偉大な装飾グループは、宗達、光悦、光琳、乾山らである。軸であろうと、屏風であろうと、漆塗りの箱であろうと、彼らの作品は、洗練されたデザインを示し、道具や物として適切に使用される。瀬戸焼は、日本の最も古い炆器で、西洋で展示されるのは今回が初めてである。大きな壺は特に素晴らしく、中国からの影響を受けているが、左右非対称である点や自然な表現は、全く日本的なものである<sup>27</sup>。

以上のように、リーが、この展覧会において日本美術の固有性が顕著な例として特筆したのは、貞観彫刻、鎌倉時代の絵巻、琳派、瀬戸焼であった。

#### 4 評価

現地では、博物館から出品された飛鳥時代の《如来座像》が注目を集めた。前述のように、10月30日の『シアトル・タイムズ』が、『ニッポン・タイムズ』の原田の記事を一部

引用した他、10月24日の同紙にも、この作品が7世紀の作例で、元皇室コレクションであったこと等が紹介され<sup>28</sup>、シャーマン・リーと、シアトル美術館学芸員のケネス・キャラハン（Kenneth Callahan, 1905-1986）が《如来坐像》を手に行っている写真が掲載されている（図4）。さらに11月13日の同紙にも、キャラハンが、この像について「たいへん美しいブロンズ彫刻であるばかりでなく、非常に稀少で初期日本美術史において重要な作品である」と記している<sup>29</sup>。つまり『シアトル・タイムズ』は、展覧会の予告も含めて、三度にわたって《如来坐像》について報道したことになる。いずれも、原田の記事に依拠したものだが、この展覧会で話題になった作品のひとつだと言えるだろう。

その他では、《鳥獣戯画残闕》が10月24日『シアトル・タイムズ』において「世界で最も有名なユーモラスな絵画のひとつ」として紹介され<sup>30</sup>、10月30日の同紙でも「重要な作品」と評されている<sup>31</sup>。

ケネス・キャラハンはまた、日本美術の装飾性に着目し、『シアトル・タイムズ』に“Decorative Japan Arts at Museum”と題する記事を寄せ、

「日本美術の特徴のひとつは、初期から現在に至るまで、その装飾性にある。現在、シアトル美術館で開催されている注目すべき総合的な日本美術展においても、それは顕著である。日本美術は、ほとんど常に装飾性と関係している。形状と機能から切り離された、装飾のための装飾であることはほとんどない。それは、屏風、版画、陶磁器の皿、漆の箱、刀、彫刻などに見出される。日本の文明は、過去1500年にわたって発展してきたが、美術は徐々に装飾的になり、それに呼応して活気が失われ、19世紀に至って、時に全体の調和よりも表面に関心を払い、細部の仕上げに集中するようになった。」<sup>32</sup>

と述べている。特にキャラハンが言及したのは、17、18世紀の工芸で、陶磁器では、乾山の菓子器にみられるような、自由に絵付けされたシンプルな形状の陶器や、鍋島の皿のような正確で洗練されたデザインの磁器である。漆工では光琳の蒔絵硯箱、屏風では金地の屏風をあげている。

キャラハンは画家でもあり、ガイ・アンダーソン（Guy Anderson）やマーク・トビー（Mark Tobey）、モリス・グレイヴス（Morris Graves）とともに、北西派（Northwest School）を牽引した<sup>33</sup>。グレイヴスとトビーが、仏教や禅、日本美術に関心があったことはよく知られているが、キャラハンが彼らと親交を持っていたことは、彼もまた日本美術に意識的であった可能性を示唆している。しかし、キャラハンの日本美術への関心が、山水画や絵巻よりもむしろ、装飾やデザインにあったことは、水墨表現や書に影響を受けたトビーやグレイヴスとは、日本美術への関心においては、一線を画していたと言えよう。

フランシス・ハッベルも、シアトル展では「多くの日本の画家達の装飾的な絵画が色々のスタイルの作品を通して表示された」と述べ、浮世絵と大津絵に言及し、特に大津絵の評判がよかったと報告している<sup>34</sup>。

西欧においては一般的に、日本美術はジャポニズム的な価値観から装飾性において評価されてきた。古美術に限らず、明治期の日本画も、アメリカでは、装飾性において評価された。しかしこの装飾性は、量感も遠近感もないフラットな色面であるという意味がこめられ、したがって装飾性において評価された日本画は、西洋絵画と同等の価値観から捉えられていたわけではない<sup>35</sup>。キャラハンの批評に、「活気が失われた」「全体の調和よりも表面に関心を払い、細部の仕上げに集中する」など、否定的な表現が含まれるのは、彼もまた、装飾性を、西洋美術の価値観からは一段劣ったものとして、捉えていることを示している。

前述のように、シャーマン・リーも、琳派

にみられる装飾性に日本美術の固有性を認めていたが、リーは装飾性にのみ固執していたわけではなかった。たとえばリーは、絵巻に日本美術の独自性として、力強さや大胆さを挙げ、それらを中国美術との対比で捉えている<sup>36</sup>。そしてリーは、シアトル展において、日本美術の総体を紹介し、中国美術とは異なる日本美術の固有性を示そうとした。

一方、シアトル展と同じ1949年に、アメリカでは雪舟展が計画されていた。ダグラス・マッカーサーが支援を約束し、パール・バックやヘレン・ケラー、ジョン・デューイらを開催委員に含む大掛かりな計画であったが、結局、実現はしなかった。理由のひとつは、雪舟のような渋い作品には、教養の高いわずかの人がしか興味を示さないだろう、というものであり、その代わりに、奈良時代から現存作家までを扱う日本美術展を構想すべきだ、との意見があった<sup>37</sup>。この意味で、シアトル展は、当時のアメリカ人の日本美術受容の問題をふまえたものであったと言える。

1951年のサンフランシスコ日本古美術展においても、日本の古美術の豊かさを示したいという意向から、古墳時代から近世までの絵画、彫刻、工芸を含む総合的な展示がおこなわれた。展示を企画したデ・ヤング美術館のウォルター・ハイル (Walter Heil) は、同展覧会のカタログにおいて、アメリカ人は日本美術についての知識が乏しいと述べ、その原因として、アメリカ人の極東美術への関心もっぱら中国に向けられていたために、日本人が固有の美術を創造してきたことを見逃してきたことをあげている<sup>38</sup>。つまりハイルの指摘は、2年前にリーが主張した内容の繰り返しであった。ハイルがリーの主張を意識したのか、あるいはサンフランシスコ展においても、リーの意向が反映されたのかもしれない。原田治郎は、サンフランシスコ展の日本側の担当者であり、作品選択はほぼ日本側に委ねられていた。したがって、原田にはシアトル展の展示構成が念頭にあったとも考えられる。1953年のアメリカ巡回日本古美術展

は、ロックフェラー三世がサンフランシスコ展を観覧し、自らが発起人となって開催された<sup>39</sup>。またリー自身がアメリカ巡回展の作品選定に深く関わったことを考えれば<sup>40</sup>、シアトル展は、戦後のアメリカにおける日本古美術展覧会の先駆的な意味をもっていたと言える。

<sup>1</sup> 拙論「シャーマン・リーと日本美術」(『秋田公立美術大学研究紀要』第1号 2014年3月 15-24頁)において、稿者は、『国立博物館ニュース』の「シアトルで大規模な日本美術総合展開かる」(第34号 1950年3月1日3頁)を参照し、本展の開催期間を11月8日から12月5日までと記したが、シアトル美術館の年報 (*Annual Report of the Art Museum, Seattle Art Museum, 1949*, p.35)には、11月9日から12月4日と記載されている。また現地の新聞には、11月9日に関係者を招待したプレビューが開かれ、10日から一般公開されると報じられている。(Suzanne Martin, “Ancient Japanese Art Treasures Shown Here,” *Seattle Post-Intelligencer*, Nov.1, 1949; “Art Museum Plans Show,” *Seattle Post-Intelligencer*, Nov.6, 1949.) また本展で使用されたギャラリーの数についても新聞によって異なるが、ここではシャーマン・リーの記述に従った。Sherman E. Lee, “Japanese Art at Seattle,” *Oriental Art*, vol.2, no.3, winter, 1949-50, p.89.

<sup>2</sup> Warren I. Cohen, *East Asian and American Culture: A Study in International Relations*, New York: Columbia University Press, 1992, pp. 105-111.

<sup>3</sup> リーよりプラマー (James M. Plumer) 宛書簡 1948年1月30日 (国立国会図書館憲政資料室所蔵 GHQ/SCAP 文書 請求番号 CIE(C)5316) ; Marry Ann Rogers, “Sherman E. Lee,” *Oriental Art*, vol.24, no.7, Jul. 1993, p.49.

<sup>4</sup> フランシス・ハッベル「シアトルの日本美術展」『三彩』50号 1951年1月 25頁。

<sup>5</sup> *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949, The Seattle Art Museum.*

<sup>6</sup> 「シアトルで大規模な日本美術総合展開かる」(前掲)。

<sup>7</sup> *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949*, op. cit., p. 11.

<sup>8</sup> Suzanne Martin, “Ancient Japanese Art Treasures Shown Here,” art.cit.

<sup>9</sup> *Ibid.*; *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949*, op. cit., p. 11; 「シアトルで大規模な日本美術総合展開かる」（前掲）

<sup>10</sup> 展覧会冊子 *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949*, The Seattle Art Museum に拠る。「シャーマン・リーと日本美術」（前掲）において、稿者は、「シアトルで大規模な日本美術総合展開かる」（前掲）と「シアトル博物館にゆく美術品」（『国立博物館ニュース』第29号 1949年10月1日2頁）を参考に、日本からの出品作品を列挙したが、それらは、一部、展覧会冊子の主要出品作品リストと異なっている。本稿では、展覧会冊子のリストを参考にし、前論文を訂正する。

<sup>11</sup> Jiro Harada, “Four Choice Works of Art to go to Seattle Exhibit,” *Nippon Times*, Sep. 29, 1949.

<sup>12</sup> “Museum to Exhibit Rare Japanese Art,” *Seattle Times*, Oct. 30, 1949.

<sup>13</sup> 原田治郎については、片平幸「欧米における日本庭園像の形成と原田治郎の *The Gardens of Japan*」（『日本研究』第34集 2007年3月 179-208頁）に詳しい。

<sup>14</sup> Jiro Harada, “Four Choice Works of Art to go to Seattle Exhibit,” art.cit.

<sup>15</sup> 現在、東京国立博物館に所蔵されている以下の模本2点が、その可能性としてあげられる。もし②であれば、「金山寺」1幅のみを出品したことになる。

① 雪舟（守保）《金山寺図》1枚 紙本淡彩 38.8×53.0cm

② 雪舟（狩野栄川）《育王山金山寺図》2幅 紙本淡彩 84.8×106.1cm

（東京国立博物館編『収蔵品目録（絵画 書跡 彫刻 建築）』1976年2月 292頁）

<sup>16</sup> 原田は“the Masuda collection of Odawara”と記し、益田孝のコレクションと考えたようだが、シアトル美術館の展覧会冊子の作品番号43には、“F. Matsuda, Odawara”と記載されている。『茶わん』誌上の座談会で、出品者として松田福一郎が出席しており、所蔵者は松田と考えて良いだろ

う。「座談会 シアトル展覧会を語る」『茶わん』第20巻第3号 1950年5月 67-69頁。

<sup>17</sup> 「座談会 シアトル展覧会を語る」（同上）67頁。

<sup>18</sup> シャーマン・リー「共に学びし朋友 - 繭山順吉と私-」『陶説』第561号 1999年12月 77-78頁。

<sup>19</sup> シャーマン・リー「回想・日本であった友人たち」『別冊 太陽』21号 1977年11月 62頁。

<sup>20</sup> *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949*, op. cit., p.1.

<sup>21</sup> [作品番号1]《男の頭部》（シアトル美術館蔵）は、当時の写真が残されていないため同定できない。

<sup>22</sup> *Art Treasures from Japan. A Special Loan Exhibition in Commemoration of the Signing of the Peace Treaty in San Francisco, September 1951*, M. H. De Young Memorial Museum, 1951, np, 拙論「サンフランシスコ日本古美術展覧会（1951年）と冷戦下の日米文化外交」『多摩美術大学研究紀要』第27号 2013年3月 93-96頁。

<sup>23</sup> Sherman E. Lee, “Japanese Art at Seattle,” art.cit., p.89.

<sup>24</sup> Sherman Lee, *A History of Far Eastern Art*, London: Thames and Hudson, 1964(1978), pp.73-74.

<sup>25</sup> リーは、1951年のサンフランシスコ日本古美術展に際して、会場となったデ・ヤング美術館において、「日本美術の創造性」および「鎌倉時代の日本美術」と題する講演を2日間にわたっておこなっており、同展覧会に関与していたことがわかっている。文化財保護委員会編『桑港日本古美術展覧会』文化財保護委員会 1952年 36頁。

<sup>26</sup> *A Survey of Japanese Art, Nov. 1949*, op. cit., p.1.

<sup>27</sup> *Ibid.*, pp.2-8.

<sup>28</sup> “Museum to Exhibit Japan Art Treasures,” *Seattle Times*, Oct. 24, 1949.

<sup>29</sup> Kenneth Callahan, “Japan Art History Shown at Museum,” *Seattle Times*, Nov. 13, 1949.

<sup>30</sup> “Museum to Exhibit Japan Art Treasures,” art. cit.

<sup>31</sup> “Museum to Exhibit Rare Japanese Art,” art.cit.

<sup>32</sup> Kenneth Callahan, “Decorative Japan Arts at Museum,” *Seattle Times*, Nov. 27, 1949.

<sup>33</sup> Thomas Orton, “Kenneth Callahan,” in *Kenneth Callahan (exh.cat.)*, Museum of Northwest Art, 2001, pp.18-21.



<sup>34</sup> フランシス・ハッベル「シアトルの日本美術展」(前掲) 27頁。

<sup>35</sup> 拙論「日本画の装飾性をめぐるいくつかの立場—セントルイス万博における日本画論を中心に—」『女子美術大学紀要』第29号 1999年3月 19-33頁。

<sup>36</sup> Sherman E. Lee, “Seven Early Japanese Paintings,” *Art Quarterly*, vol.12, no.4, autumn, 1949, pp. 309-313.

<sup>37</sup> 拙論「一九四九年の雪舟展計画」『近代画説』第23号 2014年12月 71-85頁。

<sup>38</sup> Walter Heil, Foreword in *Art Treasures from Japan, A Special Loan Exhibition in Commemoration of the Signing of the Peace Treaty in San Francisco, September 1951*, op.cit., np, 拙論「サンフランシスコ日本古美術展覧会(1951年)と冷戦下の日米文化外交」(前掲) 88頁

<sup>39</sup> 森田孝「展覧会の一般経過について」『アメリカ巡回日本古美術展覧会報告書』文化財保護委員会編集発行 1954年 4頁。

<sup>40</sup> Warren I. Cohen, *East Asian and American Culture*, op. cit., p.141.

\*本研究は、JSPS 科研費26370165の助成を受けている。



図1 《如来坐像》東京国立博物館  
(画像提供：東京国立博物館)



図2 《鳥獣戯画残闕》東京国立博物館  
(画像提供：東京国立博物館)



図3 単庵《芦鷺図》東京国立博物館  
(画像提供：東京国立博物館)



図4 ケネス・キャラハン(左)とシャーマン・リー (“Museum to Exhibit Japan Art Treasures,” *Seattle Times*, Oct. 24, 1949)

(別表) シアトル美術館日本古美術展覧会 主要出品作品リスト

| 番号 | セクション         | 作者名   | 作品名  | 技法・材料     | 制作年            | 所蔵(記載のないものは、シアトル美術館 Eugene Fuller Memorial Collection) |
|----|---------------|-------|--|-----------|----------------|--|
| 1  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 埴輪, 男の頭部   |           | 原史時代<br>3-6世紀  |  |
| 2  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 金銅部品   |           | 原史時代<br>3-6世紀  |  |
| 3  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 如来坐像   |           | 飛鳥時代           | 国立博物館, 東京  |
| 4  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 法隆寺刺繍幡   |           | 飛鳥時代           | 瀬津伊之助, 鎌倉  |
| 5  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 四天王像(一体)   | 木造        | 天平時代           |  |
| 6  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 鳥  | 粘土        | 天平時代           | Hollis and Co., Cleveland                              |
| 7  | IV 能面の発展      |       | 妓楽面  | 木造        | 天平時代           | クリーブランド美術館   |
| 8  | I 初期仏教, 神道美術  |       | 山水図  | 麻・墨       | 天平時代           | 瀬津伊之助, 鎌倉  |
| 10 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 過去現在因果経  |           | 天平時代           | 藤山順吉, 東京   |
| 11 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 毘沙門天像  | 木造彩色      | 貞観時代           |  |
| 12 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 推古天皇・聖徳太子図   | 絹本着色      | 9-10世紀         | Hollis and Co., Cleveland                              |
| 13 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 仁王像  | 木造        | 9-10世紀         |  |
| 14 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 大日如来像  | 木造        | 藤原時代           |  |
| 14 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 大日如来図  | 絹本着色      | 藤原時代           | Hollis and Co., Cleveland                              |
| 15 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 天人像  | 木造        | 藤原時代           |  |
| 16 | II 大和絵        |       | 妙法蓮華経  |           | 藤原時代<br>1150年頃 |  |
| 17 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 愛染明王   | 絹本着色      | 12世紀           | Hollis and Co., Cleveland                              |
| 22 | II 大和絵        |       | 地獄草紙   | 鎌倉時代初期    | 1200年頃         |  |
| 23 | II 大和絵        |       | 平治物語絵巻   | 紙本着色      | 1270年頃         |  |
| 24 | II 大和絵        |       | 北野天神縁起絵巻   | 紙本着色      | 1281年          |  |
| 25 | II 大和絵        |       | 法然上人行状絵図   | 紙本着色      | 1300年頃         |  |
| 26 | II 大和絵        |       | 法然上人行状絵図   | 紙本着色      | 1330年頃         |  |
| 27 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 来迎図  | 絹本着色 金彩   | 14世紀           |  |
| 28 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 聖徳太子図  | 絹本着色      | 14世紀           |  |
| 29 | II 大和絵        |       | 寺社縁起   | 絹本着色      | 14世紀           |  |
| 30 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 頂相   | 絹本着色      | 鎌倉時代           | Hollis and Co., Cleveland                              |
| 32 | II 大和絵        |       | 時代不同歌合絵切 壬生忠岑  |           | 鎌倉時代           | Thomas D. Stimson Memorial Collection                  |
| 33 | II 大和絵        |       | 駿牛図  | 紙本着色      | 1280年頃         | 藤山順吉, 東京   |
| 34 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 春日曼荼羅  | 絹本着色      | 14世紀           | Mrs. Donald E. Frederick, Seattle                      |
| 35 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 毘沙門天像  | 木造彩色 切金   | 鎌倉時代           |  |
| 36 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 観音像  | 木造        | 鎌倉時代           |  |
| 37 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 勢至像  | 木造        | 鎌倉時代           |  |
| 38 | IV 能面の発展      |       | 行道面 菩薩   | 木造彩色 漆箔   | 14世紀           |  |
| 39 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 地藏菩薩像  | 木造彩色      | 14世紀           |  |
| 40 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 聖徳太子像  | 木造        | 鎌倉時代           |  |
| 43 | VIII 日本陶磁     |       | 瀬戸焼 壺  | 炆器        | 鎌倉時代           | 松田福一郎, 小田原   |
| 44 | VIII 日本陶磁     |       | 瀬戸焼 壺  | 炆器        | 鎌倉時代           | 大宮伍三郎, 鎌倉  |
| 47 | II 大和絵        |       | 鳥獸戯画残闕   | 紙本着色      | 1200年頃         | 国立博物館, 東京  |
| 49 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 文殊菩薩像  | 木造彩色 切金漆箔 | 14世紀           |  |
| 50 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 狛犬一対   | 木造        | 14世紀           |  |
| 51 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 釈迦像  | 木造        | 14世紀           | Thomas D. Stimson Memorial Collection                  |
| 52 | I 初期仏教, 神道美術  |       | 四天王像   | 木造彩色      | 14世紀           |  |
| 53 | III 足利水墨画     | 周文    | 山水図  | 墨画 淡彩     | 15世紀初期         |  |
| 54 | III 足利水墨画     | 雪舟    | 金山寺図   | 紙本墨画      |                | 国立博物館, 東京  |
| 55 | III 足利水墨画     |       | 猿図   | 紙本墨画      | 足利時代           |  |
| 56 | III 足利水墨画     | 伝雪舟   | 竹図   | 紙本墨画      |                |  |
| 58 | III 足利水墨画     | 相阿弥   | 夏冬山水図(一対)  | 紙本墨画      | 1525年<br>足利時代  |  |
| 59 | III 足利水墨画     | 単庵    | 芦鷺図  | 紙本墨画      | 1500年頃         | 国立博物館, 東京  |
| 61 | VII 後期絵画, 装飾派 | 狩野元信  | 松に鳥図   | 紙本墨画      |                |  |
| 62 | III 足利水墨画     |       | 馬図   | 紙本墨画      | 足利時代末期<br>16世紀 |  |
| 65 | II 大和絵        | 伝土佐光弘 | 北野天神縁起絵巻   |           | 15世紀中頃<br>足利時代 |  |
| 66 | V 茶の湯         |       | ・茶の湯道具<br>(足利時代)<br>・茶室写真(京都)<br>(1600年頃)<br>・茶室写真<br>(1622年)                            |           |                |  |
| 67 |               |       |  |           |                |  |
| 68 |               |       |  |           |                |  |
| 69 |               |       |  |           |                |  |
| 70 |               |       |  |           |                |  |
| 71 |               |       |  |           |                |  |
| 72 |               |       |  |           |                |  |
| 73 |               |       |  |           |                |  |
| 74 | VI 庭園         |       | 庭園写真<br>・金閣寺(足利時代)<br>・銀閣寺(足利時代)<br>・大仙院(足利時代)<br>・三宝院(桃山時代)<br>・南禅寺(徳川時代)<br>・孤蓬庵(徳川時代) |           |                |  |
| 75 |               |       |  |           |                |  |
| 76 |               |       |  |           |                |  |
| 77 |               |       |  |           |                |  |
| 78 |               |       |  |           |                |  |
| 79 |               |       |  |           |                |  |
| 80 |               |       |  |           |                |  |
| 81 |               |       |  |           |                |  |
| 82 |               |       |  |           |                |  |
| 83 |               |       |  |           |                |  |
| 84 |               |       |  |           |                |  |
| 85 |               |       |  |           |                |  |

|     |              |                       |            |         |           |                                     |
|-----|--------------|-----------------------|------------|---------|-----------|-------------------------------------|
| 86  | IV 能面の発展     |                       | 蟬丸         | 木造彩色    | 徳川時代      |                                     |
|     | IV 能面の発展     |                       | 面(二面)      | 木造      | 徳川時代      |                                     |
| 87  | VII 後期絵画・装飾派 | 狩野常信                  | 蓮に観音図, 三幅対 | 絹本着色    |           |                                     |
| 89  |              |                       |            |         |           |                                     |
| 90  | VII 後期絵画・装飾派 |                       | 三羅漢像       | 木造漆箔    | 1687-1695 | 羅漢寺, 東京                             |
| 91  |              |                       |            |         |           |                                     |
| 97  | VII 後期絵画・装飾派 | 狩野探幽                  | 蘆葉達磨図      | 絹本着色    |           |                                     |
| 99  | VII 後期絵画・装飾派 | 英一蝶                   | 牛飼図        | 紙本墨画    |           |                                     |
| 100 | VII 後期絵画・装飾派 | 狩野探幽                  | 松に鶴図       | 絹本着色墨画  |           |                                     |
| 102 | VII 後期絵画・装飾派 | 谷文晁                   | 孔子山水図, 三幅対 | 絹本着色    |           |                                     |
| 105 | VII 後期絵画・装飾派 | Kizan                 | 芸者図        | 絹本着色    | 19世紀初頭    |                                     |
| 106 | VII 後期絵画・装飾派 | 大岡春卜                  | 祭礼図        | 絹本着色    |           |                                     |
| 109 | VII 後期絵画・装飾派 | Gosei                 | 雪中美人図      | 絹本着色    | 19世紀初頭    |                                     |
| 110 | XI 民芸        |                       | 鹿          | 木造, 鹿角  | 19世紀      |                                     |
| 111 | XI 民芸        |                       | 人と熊        | 木造      | 徳川時代      |                                     |
| 117 | IX 版画 初期浮世絵  | 菱川師宣                  |            |         |           |                                     |
| 118 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 119 | IX 版画 初期浮世絵  | 鳥居清信                  |            |         |           |                                     |
| 120 | IX 版画 初期浮世絵  | 奥村政信                  |            |         |           |                                     |
| 121 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 122 | IX 版画 初期浮世絵  | 鳥居清倍                  |            |         |           |                                     |
| 123 | IX 版画 初期浮世絵  | 鳥居清光                  |            |         |           |                                     |
| 124 | IX 版画 初期浮世絵  | 石川豊信                  |            |         |           |                                     |
| 125 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 126 | IX 版画 初期浮世絵  | 鈴木春信                  |            |         |           |                                     |
| 127 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 128 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 129 | IX 版画 初期浮世絵  | 磯田湖龍齋                 |            |         |           |                                     |
| 130 | IX 版画 初期浮世絵  | 勝川春章                  |            |         |           |                                     |
| 131 | IX 版画 初期浮世絵  | 北尾重政                  |            |         |           |                                     |
| 132 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 133 | IX 版画 初期浮世絵  | 鳥居清長                  |            |         |           |                                     |
| 134 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 135 | IX 版画 後期版画   | 鳥文斎栄之                 |            |         |           |                                     |
| 136 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 137 | IX 版画 後期版画   | 歌川豊国                  |            |         |           |                                     |
| 138 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 139 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 140 | IX 版画 初期浮世絵  | 東洲斎写楽                 |            |         |           |                                     |
| 141 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 142 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 143 | IX 版画 初期浮世絵  | 喜多川歌麿                 |            |         |           |                                     |
| 144 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 146 | IX 版画 後期版画   | 歌川国芳                  |            |         |           |                                     |
| 147 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 148 | IX 版画 後期版画   | 葛飾北斎                  |            |         |           |                                     |
| 149 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 150 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 151 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 152 | IX 版画 後期版画   | 歌川広重                  |            |         |           |                                     |
| 153 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 154 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 157 | VII 後期絵画・装飾派 | 狩野派                   | 松鷲図屏風, 六曲  | 紙本金地著色  | 17世紀      |                                     |
| 158 | VII 後期絵画・装飾派 | 俵屋宗達                  | 牡丹図        | 紙本墨画    | 1600年頃    | 前田青邨, 鎌倉                            |
| 159 | VII 後期絵画・装飾派 | 本阿弥光悦<br>俵屋宗達         | 墨画卷        | 紙本墨画金銀泥 | 1600年頃    | 瀬津伊之助, 鎌倉                           |
| 160 | VII 後期絵画・装飾派 |                       | 百鳥図, 六曲一双  | 紙本金地墨画  | 17世紀      |                                     |
| 161 | VII 後期絵画・装飾派 |                       | 竹虎図屏風, 六曲  | 紙本墨画    | 17世紀      |                                     |
| 162 | VII 後期絵画・装飾派 | 渡辺始興                  | 冬景図屏風, 六曲  | 紙本墨画    |           | シャーマン・リー夫妻                          |
| 163 | VII 後期絵画・装飾派 | 尾形光琳                  | 鶴図蒔絵硯箱     | 木製金蒔絵   |           | 原良三郎, 横浜                            |
| 166 | VII 後期絵画・装飾派 | Hirokata<br>1728-1796 | 人物図        | 絹本着色    |           |                                     |
| 168 | VII 後期絵画・装飾派 |                       | 六曲屏風断片     | 紙本金地著色  | 17世紀      |                                     |
| 170 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 171 | VII 後期絵画・装飾派 |                       | 扇          | 紙本金地著色  | 徳川時代      |                                     |
| 172 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 173 |              |                       |            |         |           |                                     |
| 174 | VII 後期絵画・装飾派 | 尾形乾山                  | 菓子器(5点)    | 陶器      | 徳川時代      | 3点: Mrs. Thomas D. Stimson, Seattle |
| 176 | VII 後期絵画・装飾派 | 越前康継                  | 刀剣         | 銅       | 17世紀初期    | N. Date, Seattle                    |
|     | VII 後期絵画・装飾派 | 酒井抱一                  | 蝶図         | 絹本着色    |           | S. Horiuchi, Seattle                |
|     | VII 後期絵画・装飾派 | 酒井抱一                  | 花虫図扇       | 紙本着色    |           | S. Horiuchi, Seattle                |

この表は、A Survey of Japanese Art, Nov. 1949, The Seattle Art Museum 所載の出品リストを参照し作成した。作品名は拙訳の仮題である。ただし日本からの出品された作品名は、「シアトルで大規模な日本美術総合展開かる」(『国立博物館ニュース』第34号 1950年3月1日3頁)、「シアトル博物館にゆく美術品」(『国立博物館ニュース』第29号 1949年10月1日 2頁)、および東京国立博物館情報アーカイブの「品名」を参照した。日本の個人所蔵者名は、「座談会 シヤトル日本美術展覧会を語る」(『茶わん』 第20巻第3号 1950年5月)、シャーマン・リー「回想・日本であった友人たち」(『別冊 太陽』21号 1977年11月)を参照した。